
マイペースな祭ちゃん

N a n k a k u r o i k e m o n o

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マイペースな祭ちゃん

【ZPDF】

N1209K

【作者名】

Nanakakuroi kemono

【あらすじ】

麻帆良在住の南神納 祭ちゃん

ほわほわしていてマイペースな彼女が学園の人達と共にお送りする、何とも言えない不思議なお話です。

その1～祭りちゃんとガンドル先生（前書き）

激しいアクション、格好いいシリーズな要素は控えめかもしれません。
それでも良いと言つて頂ける旨様は、煎餅を加えながらお読み下さい。

その1～祭りちゃんと Gandor先生

- 麻帆良学園中等部 食堂

「あつ～お腹が空きましたあ」

彼女の名前は みなみかのう 南神納 まつ 祭

ほわほわほわ～な雰囲気の年齢不詳の美少女で、このお話のヒロイ
ンです。

「はあ、全く・・・。ほり、冷めない内に食べなさい」

溜息をつきながら、彼女に器を渡すのは - ガンドルフイー - 先生で
す。

「わ～い、オムライスだ～～」

ほむほむほむと嬉しそうに頬張る様は、見ていて非常に和みます。
陰で堅物と呼ばれてる、我らのアイドル「ガンドルフイー」も顔に微笑
を浮かべて見ています。

「それで、どうしてあんな所で倒れていたんだい？」

私の目の前で美味しそうにオムライスを食べている少女の名前は「

南神納 祭」。

麻帆良学園在住、裏の仕事仲間でありながら魔法使いでは無いこという訳の解らない娘だ。

「もむもむ・・・お腹が空きすぎて立てなくなつたんだよ～」

「君の空腹になると地面で丸くなる癖、一刻も早く直すべきだと思つたんだが？」

「へへへへ、体が言つ事きかなくなるんだよ～」

「・・・・・はあ」

「でもマイペースな彼女に呆れてしまつ。この不思議な少女と出会つたのはもうつい一年前の春だった・・・。

その2～ガンドル先生、大いに悩め

一年前 春 世界樹周辺

夜になり、いつものように集まつた私達の目の前に立つ妖 *k a* . . .
ゴホンシ、
学園長が一人の少女を連れてきた。

「新しく皆と一緒に警備を担当する事になつた南神納 みなみかのう 祭君 まつり *じゅうじや*」

「こんばんわ～ 祭と言つます。皆をよりしくお願ひします

ほわほわと言つ擬音が聞こえてきそうな笑みを浮かべている姿を見た当初は、果たして
役に立つのだろうか？と疑問を抱いてしまつた私は悪くなかったと思つ。

しかし、彼女の実力は、本物だつた。その日彼女と一人で侵入者を撃退した時にそれを実感した。

「鬼さん、こひちですよ～」

二コ二コ笑い、鬼の攻撃を軽やかに避けながら鬼の注意を引きつけ、
私に鬼を退治させ。

「侵入者さんゲットです～」

術を使い巧妙に一本の木と同化し隠れていた術者を、「ここから変な匂いがしますよ～？」と言つて見つけだし、捕まえて見せたのだ。間延びした言葉づかいや天然の入った行動に目をつぶれば、

「あひやひやひやひやひやつり。や、やめてくれあひやあああつ！」
「？」
「間違いたく彼女の実力は一泣であるのだが……」

「ほらほら、早く侵入した目的を言わないとう。」

• • • • •
כִּי אָכַר אֲנָכָר אָנָכָר

「お腹が捩れすぎて大変な事になりますよ～～？」

「ああ、やめられへつやあつーっかりもひきつけええつやああああ

侵入者の全身をくすぐりながら尋問しているのが見ていると、マギー

スル川・マギを目指す

であった・・・・・。

その3～祭りやんは学園の教師ですか？…一応？（前書き）

第3話題に突入します。今回は祭りやん視点でのストーリーです。
祭りやんのとある午後の出来事です。

そのまへ祭りやんは学園の教師ですか？…一応？

正午 麻帆良学園高等部周辺

こまにちは、祭です。私は今学園内の見回りをしています。
昼の警備もひやんと真面目にやつているんですよ？

仕事の合間にキティちゃんと遊んだり（キティ言つなり…。bun
ヴァ）
ネコさん達とお昼寝したりするけど真面目にやつてるんだよ？ホン
トだよ？

注意（人はそれを言い訳と言います）

あ、何か向こうで体の大きな男の子一人が言い争つてるみたい？
周りも一人を煽つてゐし、止めないと危ないよね～

…そこのふたり～～～、喧嘩は駄目だぞ～～～～～！

「ああん？なんだ手前はよお？」学生A

「ガキは引っ込んでな、俺達は今大事な話の途中なんだぜえ？」学

生B

「おうよ、実戦派柔術と麻帆良流本格空手のどちらが強えかをよお」

学生A

「拳で語り合つて決めよつとしてるんだぜえ？」学生B

「む～、訳の解らない事言わないでよ～～つ。

それに私はガキじやないよ～～つ。先生だよ～～。

注意（身長152？ + 童顔の為、全く教師に見えません）

「H a h a h a!-! ジョークがきついぜお嬢ちゃんつ」学生A

「そんな貧相なBodyで大人ぶつても説得力は無いぜえ？」学生B

「う～～～つ、貧相じやないぞ～～～つ!-! けんと出る所出で
るんだぞ～～～つ!-!

「「H a h a a!-! 僕達に言わせりやあ、Dカップ以下なんざ子供
同～えあべしつつ!-?」」バカ一人

女の子に对して失礼な一人にはO・S・H・O・K・Iをする事に
決定です（怒）

その3～祭ぢやんは学園の教師ですか？…一応？（後書き）

次回、学生A & Bが祭ぢやんにフルボッコされます。

その4～NYA発動！！祭ちゃん“小窓”発言は禁句テス

前回のお話

喧嘩？をしていた学生二人を仲裁しようとした祭ちゃんですが、結果は見事に空振り三振でした。

しかも、子供+ペッタン娘扱いまでされてしまいます。（多少の思いこみも有り）

これに怒った祭ちゃんは、バカ一人に対し〇・S・I・O・K・I（肉体言語で）をする事にしたのでした。

作者による状況説明

祭ちゃんが何処からともなく取り出したるは、昨日駄菓子屋で購入のプラバット！！

しかし、彼女が持つ事によりプラバットはただの玩具では無くなるのだつ！！！

彼女は魔法使いでは無く、NYA（何だかよく分からんオーラ）使いである。

今この瞬間、彼女の放つNYAによつてももうちやのバットは変化したのであつた・・・。

プラバット　ZTS（何か叩かれると凄く痛い）バットに変わりました。

「女の敵、女の敵つ、女の敵いにいつ……」 祭りやん

・バシッ、バシイッ、バシンシッ……（学生A&Bをじばいでいます）

「「アウチッ、オウチツツー！カウチツツツツ……」」 学生A&B

「つぬべたでもつ、洗濯板でも無いもんつ……」 祭りやん

・ビシッ、バシイッ、ズベシッ……（やらいじばここます）

「「れでもつ、こりこりとつ、努力してんだぞおおおつ……」 祭
りやん

・ズドンッ、ズドドンッ、キュイイインシッ……（トドメの8連口
ンボがエエー）

「「ちよ、ま、待つて……、いえああああああああああシッ！
？」」 不幸なお一人

哀れ、男子学生AとBは壁になつてしましました。学園内の監せ
ん、祭りやんの体型（特に胸）につこては触れないよつてしましょう。

え、おもちゃで人がボロボロになるのかって？

そこの眼鏡をかけた女子中学生さん、この学園内ではよくある事です。

深く気にしないようにしましょ'うね。あまり気にし過ぎても疲れるだけですよ？

あとがき

祭ちゃんのスタイルは決して悪くはありませんが、良くもありません。

トランジスタグラマーでも無いです。ですので、大きいのが好きな人からは
女子扱いしてもらえません。

今日も何処かで祭ちゃんのNTVバットが唸ります。

祭ちゃんの紹介メモ その1

名前

南神納 祭（みなみかのう まつり） 性別 女

年齢 本人が覚えていないため不明。バット見15、6歳

身長 152? スタイル k yの小ちゃん体型

性格 マイペースで明るいです。（周囲の総意見）

一年前（原作開始の）に麻帆良学園にやつて來た。魔法や氣を使わない代わりに、NYA（何だかよく分からんオーラ）を駆使して戦う。

戦闘時は主にサポートや攪乱担当。

体が小さく、子供扱いされるのを結構気にしている。色々と大きくなろうと

毎日頑張っているが、肉体年齢が既に固定された状態の為、成長は望めない。

（本人はその事を忘れてています）

自分の半径50m以内に対し不思議空間を展開してしまつNYAだが、これは祭ちゃんのエネルギーを割と消費するため、彼女はよくお腹を空かせてガス欠をおこしてしまつ。（その度に誰かが回収し、食堂に直行で

す

おまけ 祭ちゃんの友達紹介 その1

ガンドルフィーー・・・ 通称ガンちゃん。 仕事仲間&「はん」を奢つ
てくれる友人1号

（先生、通称トトちゃん、仕事何間&食み何間）よく愚痴を聞かれます）

三葉院先生 這和三、月在ハ 仕事作間。ミリハ 有希一
アカミ二 二三事中間。ミリ支ヘニソニ 修行行
れる友人2号

夕ガミチ・・・通称たこちゃん 仕事何間&古い友人にして修行何間
近右衛門・・・通称ぬらりん。雇い主であり、学園内では一番付き
合いの長一友人

エヴァ・・・通称キティちゃん。 仕事仲間＆友人+祭ちゃん専用抱き枕w

彼女の友達はまだまだたくさんいますが、数人ずつにまとめて紹介してきます。

次回に続きます。

その5～天然娘と幸運助平（ラッシュキースケベ）（前書き）

祭ちゃんはついにネギ君と出会います。ちなみに茶々丸襲撃イベント時です。

ゆるやかにゆるやかに、原作と話が変わって行きます・・・。

祭ちゃんは可愛いもの好きです。決してショタコンではありません。

今回の話はその事を踏まえた上でお読み下さい。三（一）三

その5) 天然娘と幸運助平(ラッキースケベ)

こんにちは、祭です。現在、私はケガ人の介抱をしています。

和の服を机にして頭を回して笑顔しているのは不思議といふ男の子

鉄砲の音を聞いて氣絶した子狸のような可愛い声を出しながら
クルクルと目を回しているんだけど、・・・何か見ていて癒される
なあ

昼間の見回り中、ネコさん達と昼寝をしに広場に来てみると
茶々丸とネギ君＆女の子がケンカをしていたんだ。

（ガチンコバトルです、ケンカではありません）

それで、ネギ君が茶々丸に魔法を放つたから急いで茶々丸を庇いに走りだしたんだけど、何とネギ君が途中で自分に向けて引き戻したんだよビックリー！（魔法の矢を）。

結果、自分の放つた攻撃魔法をくらつたネギ君は見事KO。仕方が無いから傍にいたツインテールの女の子には先に帰つてもらう事にして、私が介抱をするのでありました。（ブイツ）

あ・・・でも・・・何だか私も眠くなつてきただかも・・・。今日はまだ昼寝をしていなかつたし・・・、ちょっとだけ眠う・・・。

・・・クウウ～（祭りちゃんは夢の世界に旅立ちました）

あれ、此処は・・・？それに僕はさつき茶々丸さんに魔法の矢を放つて、それを途中で無理矢理自分に引き戻して・・・、それから「あ、気がついたあ？」

・・・え？だ、だれですか！？

・・それに何だか頭が柔らかい枕に包まれているような・・・？

視線を上に向けると、ビームでもほわわんとしたお姉さんが僕の事を優しい瞳で

見つめていました・・・。あれ、これって膝枕ですかつつつつー！？
あ、ネギ君が田を覚ましたみたい。（私もさつきまで寝てたけどね）
何だか周りをきょろきょろ見ている様子が可愛いなあ
・・・よし、早速声をかけてみよ！つー！—！

・あ、気がついたあ？

「え？だ、だれですか！？」

・あ、私はこの学園の警備員をやつてる祭りちゃんだよ～つ

「は、はあ・・・どうも。・・・あれ、これって膝枕ですかつつつ
つー！？」

・その通り～つ。祭ちゃん先生特製膝枕だよお～～～つ

「あ、あわわわわ～つ！～す、すみませ～んつ～～！」

「あ、何か慌てて逃げて行つちやつた・・・。もうちょっとお話をしたかったんだけどなあ・・・。まあいつか。また明日会えるだらうしね

その日、もの凄いスピードで学園内を走り抜ける少年を多くの人が見かけたようです。ちなみにネギ君は新田先生にひつてり絞られていました。

（罪状は学園内爆走行為）

今回ちよ～いつと補足

祭ちゃんは裏の警備員でもあるので、学園長からネギ君の事は聞いています。また、普段から彼の暴走行為（主に武装解除）は見かけてるので、ネギ君の性格は大体把握しているのです。

ちなみに祭ちゃんは彼の事を「可愛い顔をした変態と言ひ方の紳士」と

認識しています（あながち間違いではありませんが）

茶々丸ともエヴァ経由で知り合いになつていますが、友達と言つてはネコと同じ扱いをされています。（祭ちゃんは全く眞にしています）

その5～天然娘と幸運助平（ラッキースケベ）（後書き）

ネギ君は恥ずかしさのあまり逃げてしましました。
祭ちゃんは自分のした行為（膝枕）の所為だとは
全く気づいていません。

天然というのは時として恐ろしいのです・・・。（汗）

そして、次回は誰との話になるのでしょうか？

やの～キャラがやんだって女のやなんですかーー。 ばや祭（前編）

今日はこつもよつ長めになつてこます。 少々読みこくにかもしだせんが、
興味のある方は読んでいくトセー。 お願いします。 m(ーー)

そのへー キティちゃん だつて 女の子なんですかーー。 b y 殺

麻帆良大学工学部 某研究室内

暗い研究室の中、黙々と作業を続ける男が一人。彼の名前は葉加瀬
はかせ
舵郎

人であり、
葉加瀬聰
はかせ さとみ

美の兄である。

（彼の容姿は、若き日のダービー博士をイメージして頂ければOKです）。

「ふふ、ふふふふ・・・ふはははははせつはせつ！－！」

彼は、最近出没するよつになつた下着ドロ（犯人はエロオコジヨ）に対処すべく変質者撃退グッズの作成を依頼されていた。当初は簡単な設置式の警報機等を作ろうとしていたのだが、いつの間にかテンションが揚がつてしまふ。

・・・痴漢撃退口ボガ完成してしまいました。（何故つ！？）

「ふむ、こいつの名前は・・・・・そう、ゲッちゃんにしようつ！待つていてるがいいまだ見ぬ下着ドロよつ・・・ククツ・・・クハハハツ！－！」

一方、場所は変わり麻帆良学園都市郊外

「んにちは、祭です。キティちゃんが風邪をひいてしまったと言つ
ので

見舞いに行く途中、ネギ君と会いました。

「ふむふむ、果たし状があ・・・クリーンファイトって感じだね?
何か男の子らしくてカッコ良じんじやないかな? (なでなで)

「・・えへへ、有り難うござります (= - - =) ッ

「けど、今日は駄目だからね? キティちゃんは風邪引いてるみたい
だから。

「キティちゃん?」

「ああ、エヴァちゃんの事ね。私とかはそう呼んでるんだ
・・・何故か怒られるけど。

「あははは・・・間違つても呼ばないよつにします・・・」

「うん、そうした方が良いかも? 顔を真っ赤にして暴れかねないか
らね

「・・・(それでも呼び方を変えないマジコさんって一体・・・)

「まじ着いたよ。」「」がキティちゃんのお家だよ~つ。

「へえ~。以外と素敵な家に住んでるんですね・・・。てっきり、

墓とかに住んでいたのかと思つていきました・・・・・。」

「ふふふ、ネギ君、それは偏見と言つやつだよ。そして、中を見るともつと驚くぞ。」

「やつほーつ茶々丸 キティちゃんのお見舞いに来たよーつ

「ほんにちは、祭先生にネギ先生。・・・ネギ先生は何をそんなに驚かれているのでしょうか?」

「うん・・・たぶん、キティちゃんの外観的なイメージ(吸血鬼としての)と

「」の少女趣味全開な部屋のギャップに対しかなあ?・・・あ、これお見舞いの手作りゼリーね。冷やして後で食べてね

「有り難う」やれこめや

「・・・・・真祖の吸血鬼つて一体・・・・・悪の魔法使いつて一体・・・」

「ほら、ネギ君いつまでも驚いてないで。お見舞いに来たんだから挨拶にいかないと。」

「はー! そうでした、今日はエヴァンジョンさんに果たし状を・・・はい!」

・セウジヤなくて、お・見・舞・い・だつてば～！……（アヤム）
ンツ）

とつあえず、パーティクを起^レしているネギ君をT・ハンマーで落ち
着かせました。

（T・ハンマー・・・・通称・突つ込みハンマー。ただのピコハン
です。）

おまけ

夕闇の中、その小動物は荷物を背負^リつて走っていた。

「へへへ・・・・、今日はなかなか良い下着が手に入つたぜ」

彼の生物は名をアルベル・カモミールと言い、猫の妖精に並^{ケット・シ}ぶ
二大妖精・・オゴジヨ妖精でありながら下着ドロ二千枚の罪で国外
(英國)から

逃亡中の変態野郎である。

「につしつし・・・・、今晚もぬぐぬぐタイム全開でああ・・・・」

「待ちたまえそこの変質者君」

「だ、誰でいつ・・・・・・え、あー？」

突如背後に現れたのは・・・・、マッド臭のする研究者らしき男とミ・
I・B風の

エージェントらしき格好をした（黒いスーツ＆サングラス）小柄な少女。ちなみに少女は「変態下等生物発見・・・これより殲滅シマス」とか言つている・・・。

「や、やべえよ・・・」こつあ（汗）「（ダダダッ）

オコジョは逃げ出したつ！！

「はははっ！！何処に逃げよつと言つんだね？」

「ひいいいツツツ！！！」

しかしそうぐに追いつかれたつ！！

「ああ・・・裁きを受けたまえ。ゲッちゃん、Ready Go！」

「イエス、マスター」

「いやああああああ！？助けて兄貴いいいいい！！！」

「痴漢撃退ビーム・・・発射」（カチッ、シュゴーッ！！！）

「ギャアアアアアアアアツツツ」

「クククククツ・・・科学の発展に犠牲は付き物なのだよ・・・クハハハツ」

哀れな子羊の悲鳴と、不気味な男の笑い声は闇の中へと消えていっ

た。

その6～キャラちやんだけの子なんですかー！。b.y祭（後書き）

新たにオリキヤワ登場。マッドな博士に助手兼ロボのゲッちゃんです。

博士のイメージはダ・ジーブ博士+ムカで、ゲッちゃんは某ゲームの脇役ロボです。博士は兎も角、ゲッちゃんの元ネタが分かる方は果たしていらっしゃうか？・・・少し不安です。

その7～クウネルと遊ぼう（前書き）

口りな紳士クウネルさんの登場です。

そのフーケウネルと遊ぼう

午後 エヴァンジョン邸 リビング

「まつたく・・・あのガキンチヨめ。人のプライバシーを覗き追つて・・・」（パクパク）

「ふ〜む。ネギ君は魔法を使ってそんな事をしたんだ・・・もぐもぐ。うん、美味しい

現在、キティちゃんと一緒に冷やしておいたアップルゼリーを食べています。

その後、ネギ君から魔法を使って、夢の中身を覗かれたみたい。ネギ君、いくら好奇心に駆られたからと云って勝手に女の子の心中を

覗くなんて・・・やつぱり君は紳士は紳士でも、変態と云ふのは紳士だよ・・・。

今回の事件の犯行現場（寝室）に私がいなかつたのは、ゼリーを盛る器をどれにするかで悩んでいたからなんだけビ・・・。

「ふむふむ・・・」「好奇心ぬー」を殺す」とはーの事なんだね？納

得 × 2

「祭先生、ぬーでは無くネコだと思つのですが？」

「……仮にも教師（？）であるお前が謬を間違えております。」

「はあっ……がっく。」

夕方 図書館島 地下最深部

キティちゃんのお見舞いを済ませた後、いつたん自宅に戻つて荷物等の準備をしてからやつて来ました地底図書室 カヨウビド明日がお休みなので、友達の家に遊びに来ます。

「やつほ～番竜さん、クウネルに会いに来たよ～

「グルル……（お、また遊びに来たのか嬢ちゃん？）」

「うん、ちょっとお邪魔するね

「コルジ……（ああ、主も喜ぶと想つぜ）」

門番をしていく竜さんに挨拶をした後、扉をぐぐつて地下に降りる事しばし……

「ふふ、祭さん。よくいらっしゃいました

「えへへ……また遊びに来たよ

私を迎えてくれたロープ姿の優男さんの名前は通称クウネル・サン

ダース（？）

図書館島の謎の図書長なんだって。エヴァちゃんの呼び方“キティちゃん”を

教えてくれたとっても良い人なんだよ？

「成る程…キティはネギ君の挑戦を受ける事にしたんですね？」

「うん、「ククク…せいぜい揉んでやるよ」って言つてた。

…何処を揉むのかな？

「……もう聞ひの意味ではないと黙つのですが？」

「…まあ、ぬりじん（学園長）もネギ君が今後成長するためにもキティちゃんと戦つのは良い事だつて言つてたし、私としてはふたりの対決は結構楽しみかな？」

「ふふふ、そうですね。…ヒロアホットケーキを焼いたんですけど食べますか？」

「あ、食べる食べる、バターとシロップたっぷりでよろしくね」

「ふふふ、分かつてますよ…（本当に純粹な方ですね…）」

クウネルの作るお菓子は美味しいから、いつも遊びに来るのが楽しみなんだよね

だけど、なんでいつもいろんな服を着せたがるのかな？どの服も可

愛らしいから
別に嫌じゃないんだけど・・・・・。

そのフーケウネルと遊ぼう（後書き）

祭ちゃんとクウネルとお話でした。天然娘と口り紳士の組み合わせは、突つ込み役がないので下手をすれば“落ちのない地獄”が完成します。

その8～とある転生者の溜息（前書き）

今回は番外編、このお話のもつ一人の主人公・ある転生者君のお話です。

その8へとある転生者の溜息

やあ、どうも。俺の名前は八城光太郎、俗に言つ転生者つて奴さ。ここ“ネギま”の世界に生を受けた当初は、自分の容姿は美形でもなければ、チートでもないので、のんびり一度目の人生と麻帆良学園生活を満喫しようと思っていたんだ……思っていたんだだけさ……。

どうやらこの世界（作品）の神（作者）は俺をこの世界に産み落とす際に特殊スキル - “巻き込まれ体质”と“無類のタフネス”の一いつを付与してくれたらしい。……微妙にうれしくないよホント。この能力のおかげでさ、生まれてから現在に至るまで……色々なトラブルに巻き込まれましたよ。（涙）

「ぐはははははっ！……息子よ修行じやーっ！」

熱血修行バカな親父につき合わされた幼年+少年時代。（お陰で無駄に強くなってしまった……。）

「光太郎っ！……今日こそ私と勝負するアルっ！……」

バカイエローに追いかけられる毎日。

「八城光太郎っ、覚悟！！」

その他有象無象の格闘バカ達からの襲撃を毎回撃退している内に“麻帆良の喧嘩番長”などと言つたり難くない称号をゲット。（汗）

・・・あれ、何かバトルフラグばっかり立ててない？

まあ兎に角、今年の春で17歳・高校二年になり原作がついに開始したのだが、微妙に原作と違う部分が出てきているんだよ。気づいた点を挙げてみると・・。

? 魔法先生の中でも随一の堅物キャラだったガンドル先生が苦笑しながら

女の子にオムライスを奢っていた。（つて言つたその娘誰よ！？）

? その女の娘が何と警備の先生だつた！…祭ちゃんと言つらじへ、先日喧嘩をしていた男子生徒一人をプラバットでしばいてた。

（・・・原作にこんなバグ娘いたっけか？）

? 茶々丸襲撃事件で気絶したネギに対して祭先生が膝枕で解放をしていた。

（年頃の少年にあれは刺激が強すぎるのでは？）

こんな感じだらうか？この“祭ちゃん”と言つイレギュラーな存在が原作を少しずつ壊していつているような気がするんだが・・・どうだらうか？

まあ、出来るだけ原作に関わらずに学生ライフを謳歌したい俺としては

」の娘とは関わりたくなかったんだが……無理でした。」

きっかけは実家の親父から届いた一通の手紙。

・息子へ

おう、光太郎。学園長から聞いたぜ、お前最近“麻帆良の喧嘩番長”と

呼ばれてるらしいな？随分強くなつたみたいじゃねえか……。

そんなお前に課題を一つ、学園長の手伝いをしろ。多少荒く扱つても良いとあの爺さんには言つてあるから、精々こゝき使われろや。

学園の裏仕事なんかをやつてりや強くなれると思つぜ？
早く俺より強くなつてみせろ馬鹿息子。

八城天龍より

結局親父の所為で夜の警備を手伝う事になつたんだが、
よりもよつて今回組む事になつた相手が……。

「祭です、もうじくねつ」

……じつ見ても祭りやん先生です。有り難いございました！
「うとうとレギュラーと接触してしまつたよ……はあ。（ ； ； ；

やつぱりこのまま物語に巻き込まれて行くのだろうか……不安だ。

その8～とある転生者の溜息（後書き）

当然と言いますか、光太郎君はストーリーに介入していきます。彼は美形ではありませんし、ナデポモニコボも持つてません……。

まあ、彼自身が望まないでしょ？がハーレムは無理です。（笑）

また強キャラではありますが、チートでは無いです。

一応もう一人の主人公なので今後ちょくちょく登場します。

光太郎君の紹介メモ その1

名前

八城 光太郎 (やしろ こうたろう) 性別 男

年齢 17歳 結構苦労人なのでもう少し年上に見える。

身長 178? まだまだ伸びそう 結構筋肉質

性格 少し口が悪いが面倒見は良い。

俗に言う転生者。修行馬鹿の親父に幼少の頃から扱かれてきたので、結構強い。

無類のタフネスを誇り、親父のスバルタ指導もあって氣の扱いに長けてている。

人並み外れた膨大な気を武器に戦う戦士で前衛タイプ。ラカンと馬が合いそう。

前世でも修行漬けの人生だったため、今回はまつたりスクールライフを楽しみにしていたが、巻き込まれ体質の所為で夢破れる事に・・・。

祭ちゃんと言つ自分が以外のイレギュラーな存在が原作を変え始めているのに
気づき、それに自分が巻き込まれる事で不測の事態が起きる事を懸念している。

その為出来るだけ彼女に関わるまいとしていたが、裏の警備員をする事になり
結果として彼女と接触してしまった。

学園では“麻帆良の喧嘩番長”と呼ばれ、古菲クーフィや四天王
その他多数の力自慢達に勝負を挑まれ逃走もしくは撃退する毎日を
送っている。

切実に彼女を募集しているが、恐らく“普通の娘”は無理だらう・・
・。

彼の主な交友関係

古菲・・・勘弁してくれ(汗)
四天王・・・いい加減にしろ(怒)
その他多数・・・うつとうしい(怒×3)

その9～祭りやんの麻帆良学園ライフ（前編）

今回は、祭りやんの1日の生活を紹介したいと思います。
大体こんな感じの毎日を麻帆良学園内で過ごしているのだと
言つ事をイメージして頂ければ幸いです。m(一一)m

その9～祭ちゃんの麻帆良学園ライフ

早朝 麻帆良学園都市 郊外 祭ちゃんの部屋

「・・・カチッ、だんごつ だんごつ だんご大家々」（パシッ）

「ふあ～、朝だぞ～・・・。（。・）。○

寝ぼけ眼をこすりながら、ベッドから出てきた祭ちゃん。
だんごの枕を引きずつて、浴室へと向かって行きます。
(ドーム型なので、少し持ちこべりうです)

「よ～し、『はんを食べるだ～～～！』

温めのシャワーで目を覚まし、洗顔 + 着替えを済ませたら
手早く準備だ朝ご飯つ。祭ちゃんは“食べる”事に妥協はしないの
です。

朝の献立

- ・トースト×2枚（バター、イチゴジャム）
- ・ベーコンエッグ×1人前
- ・バナナ×1本
- ・ホットなカフェオレ（ミルクたっぷり）

-充電完了っ・・・。今日も頑張るぞ～

朝もきちんと食べるのが、祭ちゃんのモチューです。
(・・・食べないと通勤途中で倒れます。)

ほっぺがほんのり赤くなり、目がきらきらと輝けば
いつもの祭ちゃんが完成します。いわば準備OKです
食事を終えたら歯磨きと通勤準備を済ませます。
さあ、麻帆良学園へ出発ですっー！

午前中の警備を終えての昼下がり、広場でネコ達とお昼寝タイム。
そして、今日も茶々丸は微笑みながらデータを保存中。

・ほわほわ～・・・。(*・_・、*)。

「・・・今日も良いデータを保存できそうです。」 茶々丸

午後から夕方にかけて、警備を再び開始します。小柄な少女が胸を
張り
ちよこちよこ動くその様は、教師の威厳は無いけれど、愛らしさだ
けは
一杯です。（本人は張り切つて仕事をしていますが・・・）

・じら～つ、女の子をいじめる男の子はお仕置きですよ～つづつ～

!!

「 「 「 ぎやあああつゝ、何か無茶苦茶痛えええつゝつ…」 「

ナンパ男 × 3

バシツ、バシツ、ズビシツ、ドカツ、スペコーンツ（ただいまお仕
置き中です）

「 「 「 ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい…」 「

ナンパ男 × 3

どうやら、女子学生を無理矢理遊びに誘つていた男達（外部からの）
を
NTS（何か叩かれると凄く痛い）バットでお仕置きしたようです。

彼らに変なトラウマが出来ない事を祈りましょう・・・アーメン。

夜になり、警備の前に夕食です。今日の相方はタカミチ先生・通称
たつちゃん。

二人で仲良く屋台で食事、どうやら今宵の食事は中華になりました。

かに玉 マーボーつ ハビ餃子～つ (もふもふ)

「 はははっ、喉に詰まらないよっこね・・・ たつちゃん

・ もううんつ、じつかり味わって食べないとね

早速警備が始まりました。敵の召還した妖怪達をタカミチが撃退し、祭ちゃんが術者を探し出してから捕まえます。そして、尋問の開始です。

「ああえへへへつーー、そんな所をくすぐりたとこへへへつつ

（ ）
- 侵入した目的を、早く答えた方が楽だよ～っ？（さわさわさわさわ）

「いやああああああつつつ……」

闇夜に侵入者の悲鳴が木霊し、本日の警備は終了となりました。尋問の様子を見ていた魔法先生達は、心で敵に合掌です。

家までタカミチに送つてもらい、うがい+手洗いを済ませたらパジャマに着替えてベッドにダイブ。明かりを消したら準備完了

・ 今 日 も 頑 張 つ た よ ～ ・ ・ ・ お 休 み ～ ・ ・ ・ 。 (u — u *) z z z

祭ちゃん、今日も一日お疲れさまでした。それでは良い夢を・・・。

その9～祭ちやんの麻帆良学園ライフ（後編）

祭ちやんが、学園内でどう言いつて行動を取っているかを
作者自身も一度把握しておきたかった為、今回はじめて
話を投稿しました。

・・・果たして、彼女はしばいた相手や侵入者達から
何と呼ばれているのでしょうか？非常に気になります。

その10～停電といふアレが乾パンです（前書き）

祭ちゃんはクウネルさんと仲良しです。
そして、停電の日も彼女はマイペースです。

その10～朝食といふのは乾パンです

朝 地底図書室 クウネルさんの住居

暖かい光に満ち溢れ、心地よい空氣の流れる地底図書室。その最深部に存在するクウネル邸のテラスにて、祭ちゃんとクウネルさんが朝食を摂っています。

クロワッサンに野菜スープ、サラダを食した後のデザートはフルーツを。

食後はハーブ・ティーを飲んでいります。

「いやそれさま。クウネル、いつも有り難うね

「いえ、貴方の元気な笑顔を頂いてますので。そいつって貢えるだけで充分です」

昨日はクウネルの貸してくれた着ぐるみパジャマ

(タヌキ v e r) のお陰で、ぐっすり眠る事が出来たよ
・・・でも何で私のサイズのパジャマがあつたのかな?
・・まあ良つか、もふもふしていて可愛らしいから
(どつやうり気に入つた様子で、まだ着たままのようです。)

「フフ・・、気に入つて頂けたようで何よりです。もしよろしければ差し上げますが?」

「え、貰つて良いの? いつもありがと~つ

「どういたしまして。その代わりと言つては何ですが、今回も写真を撮らせて頂けますか?」

「うん、別に構わないよ?」

「有り難うござります。(フフフ・・・またコレクションが増えました)」

クウネルさんのお気に入り写真集に新しく
“祭ちゃんのタヌキパジャマ”が 追加されました。

朝食をigy馳走になつて、鞄にパジャマをしまつてから地底図書室を

出発。

竜さんに途中の階層まで送つてもらひました。話してみると、結構気さくで優しいんだよ?

・番竜さん、ありがと~。また遊びに来るね

「・・・・・グルルッ (ああ、いつでも訪ねて来な)」

下へと降りて行く彼(?)が見えなくなるまで手を振つて、
後は地上を田指してウォーキング リラック
避けつつも、途中でジュースを購入し、無事図書館から脱出です。

・新商品、“提督印・特製緑茶”か~。(普スツ、チュー)
・・・う~ん、緑茶なのに何でこんなに甘いんだろう?

図書館内には、他にも“特製野菜汁”や“青酢”と言つた一風変わつた

商品が売つています。是非皆さんもトライして下さい。

午後 麻帆良大学工学部 舶郎博士の研究室

「やあ、良くな来たね祭君。ゲッちゃん、彼女にカフェオレを」

「イエス、マスター」

現在、知り合いの博士が勤務している研究室へ遊びに来ています
目の前にいる男性の名前は葉加瀬はかせ 舶郎だらう

『変な物ばかり発明しているけれど、天才ではある』って
以前ガンちゃんが言つていたよ?それに、妹さんも天才なんだって。

「祭君、今日は夜の8時から12時までは学園全体がメンテナンスで
停電になる日だから、ローソクや懐中電灯の準備は
しつかりしておくんだよ?」

「もちろん準備万端だよ~つ。真つ暗な学園は何だかぞきぞきする
ね?」

う~つ・・・早く停電にならないかな~~。(^~^)。

あ、そうだ。停電といつたら乾パンが必要だよね?早速買いに行こ

夕方 麻帆良学園中等部 近所のコンビニ “MAGGY”

「ぐすっ、・・・友達が欲しいのに、誰も気づいてくれません。やつぱり私は駄目な幽霊なんでしょう？」

コンビニの前に佇む一人の少女。黒いセーラー服に銀色の髪、紅い眼をしたどことなく古風な感じのする美少女・彼女の名前は“相坂さよ”。幽霊でありながら全く気づいてもらえないと言つ何ともかわいそうな少女である。

話し相手が欲しく、絶賛友達募集中の彼女が出来つたのは

「あれ、幽霊さん？こんな所でどうして泣いているの？」

コンビニの停電フェアに誘われ、乾パンを買いにやつて来た祭ちゃんでした。

その10～ 僕と吉野が乾パンです（後書き）

ネギ君がキティちゃんと激闘を繰り広げている間、
きっと祭ちゃんは幽霊少女を家に招いておしゃべりを
しているはずです。祭ちゃんは少しづつ地味に
原作の流れを破壊していきます。

その11～仕事を終えての一一杯は格別です（前書き）

今回は光太郎君のお話です。停電の日、先生達と警備をします。ちょっぴり戦闘描写がありますが、シリアスにはなりません。

後、わがわんこは幸せになつて欲しいですね・・・。

その11) 仕事を終えての一一杯は格別です

。 かわいがりやうがんと樂しへておへりべつをしつてこゝの通ひこゝれに・・・・・

夜
麻帆良学園都市内
某所

「八城君、右だつ！！」 タカミチ先生

この物語のもう一人の主人公、ハ城光太郎は他の警備担当の人達と一緒に侵入者の撃退をしていました。

全身に気を纏つてひたすら妖怪を打撃技メインで片づけ

「必殺、男氣・ラリアット！－！」（ズガンッ）

「ぐふおおおおおーーーー！」

彼の戦闘スタイルは実にシンプルで、持ち前の並外れた氣で強化した肉体で敵を殴り、蹴り、吹き飛ばしていく前衛タイプです。（また、その他の特徴として変な名前の技を数多く持っています。）

視点・光太郎

こんばんは、転生者の光太郎だ。今日は年に一回行われる学園全体のメンテナンスの日と言う事で、魔法先生・生徒が大勢警備に出回っている。

ん、祭ちゃんは？今日は非番だから恐らく家でまつたりしているはず。誰かを招いて『今夜は乾パン・パーティだ！』とか言つてると思うよ。

（大正解です。もつとも相手は人ではなく幽霊ですが・・・。）

「次つ、断罪・レバーブローッツ！（ガボスツ）

「がつ、ぐじふおおおおーー！」 陰陽術師C

停電で一時的に結界が消えているとは言え、侵入者が多い。タカミチ先生を始め、刀子先生にグラサン先生と言つた一流の魔法先生達が奮戦しているけれど・・・。

「ぐ、早く帰つて娘の顔が見たいと言うのにっ！』 ガンちゃん

「全く持つて、同感だねっ！』 弐集院先生

「ああつ、彼と過ごす時間が～つ！』 刀子先生

「・・・（今夜は何を飲もうかな？）。』 グラサン先生

何だか、先生方の性格が原作と比べて若干砕けているような気がするのには
氣のせいではないよな？・・まあ、刀子先生は変わつていなか。
多分。

（バシャンッ、パパパパッ）

ふう、ようやく停電の復旧が完了したか・・・。これでやっと帰れるよ。

あ、ガンドル先生、式集院先生、刀子先生達の顔が綻んでいる。
グラサン先生は・・・何を考えているのか分かんないや。（汗）

（サングラス + 無表情の為分かり難いですが、今夜飲む酒と肴について
思いを馳せています。内心はウキウキ状態です。）

日付が変わつてしまはらくした頃、光太郎君は小腹が空いたので行きつけの

店へとやつてきました。店の名前は“ L o v e l y S t a r f i

s h ”常連客達からは

“ ラヴスター”と呼ばれている場所です。

「やあ、いらっしゃい光太郎君」

「どうも、マスター。何か夜食を作つてもうえませんか？」

「オーケー、少しだけ待つてね。」

今、光太郎君と話をしていたのがこの店の主“田代光晴”さん。
夜だけ開くこの店を一人で切り盛りしています。（彼も魔法関係者
です。）

今夜の客は、光太郎君、真名ちゃん、刹那ちゃんの3人です。

光太郎君がマスターの運んできたサンドイッチとミニネストローネを
食べ終えて、
食後にコーヒーを飲んでいると、マスターが3人に尋ねてきました。
「知り合いから貰つた飲み物を、一緒に試飲してみないかい？」

「どう言つた物ですか？」 刹那

「うん。成分は普通の水らしいんだけど、飲むとお酒を飲んだ時と
同じ様な状態になるそうだよ？」

「良いのかい？私達が飲んでも」 真名

「お酒では無いから、全く問題ないよ」

「仕事の無事終了出来た事への祝杯と言つ事で良いんじゃないかな？」

光太郎

特に反対意見も出なかつた事もあり、みんなで飲んでみる事になつたのでした。

視点・光太郎

マスターに勧められて飲んでみたが、不思議な水だ……。体が温まり、ほろ酔い気分になつてきた……。マスターと龍宮は平氣そつだが、桜咲の状態がなあ……。

「うつう、私だつて……本当はお嬢様と一杯遊びたいんですつ。だけど、だけど
私はつ、私は……ぐすつ、ひっく……えぐう」（――）

まさか泣き上戸とは……。おこ龍宮、携帯で撮るのは止める。

おまけ その頃の祭ちゃん

「そうかあ……60年も幽靈をやつてゐるんだ。よし、知り合いの

シャーマンさんに頼んで蘇生を……」

「あの~、多分私の元の体はもう無いと思つのですが?死んでしまつてから

随分と経ちますし……」

「……あう」（¤・・・*¤）

その11～仕事を終えての一一杯は格別です（後書き）

みんなで飲んだのは川 水です。せっちゃん以外は酔わなかつた模様。

後日、録画した内容を見た彼女は確実に怒りますね・・・。

それを分かつてやる真名さんは、ちよつぴりいじめっ子です。

ルの12→ れぬぢゅせひひと起動です (記書き)

9月、ぶつりの投稿です。祭りやんが、れぬぢゅせひひと新しい
体をプレゼンするの話になります。

なお、今回の話を読む際に「3分クッキング」のテーマを
聴きながら読んで頂ければ幸いです。

その12／ 祭ひちゃんを起動です

早朝 麻帆良学園都市 郊外 祭ひちゃんの部屋

チユチユチユンチユンチユン、チユチユンチユン

家の外で雀達が軽やかに会話をしている頃・・・。

「祭先生、祭先生～つ。起きて下せ～こ～」

直接手で触れる事が出来ない為（幽霊なので）、近くにあつたぬいぐるみの手を動かして祭ちゃんの体を揺すっています。わよちゃん、以外に器用ですね。

「・・・（ゆうん、後3・・・いや5分～～～・・・・・。」（ヒ）――
ヒ * (ニニニ

「は～～～つ、時間を増やせないで下を～～～～～」

よつやく起きた祭ちゃん。シャワーを浴びて、着替えを済ませてから朝ご飯の準備を完了しました。けれども、まだまだ眠そうです。

「 わあやつ・・・。それで、 『 こんな早くパンへしたの~? 』 = () ?

フレンチトーストを食べながら、 祭ちゃんは尋ねます。

「 あ、すみません。 昨日、 私に新しい体をプレゼントして頂けると言われて・・・あまりにも嬉しかったものですから」

視点・祭ちゃん

「 あ、すみません。 昨日、 私に新しい体をプレゼントして頂けると言われて・・・あまりにも嬉しかったものですから」

あ、 そうだった。 祭ちゃんのこの言葉を聞いて、 一気が田が覚めたよ。

ひよけやんに新しい体を用意してあげるって約束したんだつたつけ?

「 よ~しつ~! やよけやん、 今から地下庫に降りるよ~つ~! ~

「 は、 はいっ」

以前、 れんきんじゅつしの友達から貰った本が役に立ちそうだね
ふつふつふ~。 わよけやんの為にも頑張るぞ~! ~! ~!

祭ちゃんに連れられて、さよけちゃんが地下室にやつてきました。
地下なのに部屋全体は明るく、何故かは分かりませんが、
不思議と気分が落ち着く空間です……。

それは良い事なのですが、何故か彼女達はエプロン姿です。
フリルの付いたエプロンにミトンを装備していて、何処か
愛らしさを感じさせます……。

（靈体のさよけちゃんがどうやってエプロン姿になつたのかが
謎ですが……。気にしてもしょうがないのでスルーです。）

「祭と」

「や、やめのい」

「「3分間・メイキング～ホムンクルス編」」（パチパチパチ
～）

・・・おっと、作業が始まるようですので解説を再開します。

今回紹介するのは、祭ちゃん流・ホムンクルスの作り方です。

用意する材料は以下の物になります。

- ・ほむんぐるすぱつだ～ ×1体分
- ・まんぢゅういら（？） ×少々
- ・けんじやのいし（？） ×10 g
- ・“N S H W”（何か凄い聖水） ×200cc

これはあくまで祭ちゃん流ですので、決して真似はしないで下さい。

材料集め。作業で生じたアクシテントにつきまして、当方は一切の責任を負いません。三（—）三

上記の材料が全て準備出来ましたら、早速メイキング開始です。

まず始めて、 “ まんぢゅう ” をすり鉢で綺麗に磨り潰します。続いて、 ボールに “ ほむんぐるすぱうだー ” を入れ、 そこに “ NSHW ” を注ぎます。そして、 良くかき混ぜます。

全体的に良く溶けましたら、 先程磨り潰した “ まんぢゅう ” を加えて さらによかき混ぜます。生地で元しが出てきたら一度冷蔵庫で寝かせます。

1時間程寝かしたら、 “ ほむんぐるすめいかー ” の型に綺麗に流し込み

“ ほむんぐるす ” の中央部分 (ヒトの心臓辺り) に “ けんじやのいし (?) ” を加えて、 準備完了です。

後は “ ほむんぐるすめいかー ” を起動させ、 出来上がるのを待ちます。

「上手く出来上がると思こねー」 祭ちゃん

「やつですね。楽しみです」 れよりさん

視点・やよ

ここにちは、相坂さよです。何と60年間にして幽靈を卒業する事が出来ました。祭先生つ、凄いです!!!

私の新しい体は“ほむんぐるす”と呼ばれる物らしいのですが、以前の自分と瓜二つの姿をしてるので、始めて鏡で見た時はびっくりしました。

びつして、そつくりな物を作れるのかとお尋ねしたのですが…。

「生地を練る際に完成した姿を思い描きながら練つていいから~

」と吉ひ答えが返つてきました・・・ちょっとびり不思議な方ですね。

何は兎も角、祭先生、本当に有り難いござります。

夕方 麻帆良学園中等部 学園長室

(ピン、ピン)

「ねうりん、ちょっと会わせたい娘がいるんだけれど？」

そう言って部屋に入つて来たのは、わしにとつて氣の許せる友の一人祭君じやつた。一体誰かと尋ねようとした所で、彼女の後に続いてやつて來た少女の姿を見て思わず眼を見開いてしまつたわい。

銀色の長い髪に紅い瞳、整つた顔立ちに、どこか臆病な小動物を思わせる表情。

60年間、救いたくても救いきれなかつた少女が田の前におつたのじや。

「・・・相坂、さよ君じやの？」

「はい、さうですよ。学園長先生」

年甲斐もなく泣いてしまつたわしは、決して悪くないと思つぞい・・・。うん。

あ、すまんがもう少しだけ泣かしてくれんかのう？・・・ぐすり。

その12へ なぜかまた起動です（後書き）

今回登場した様々なアイテムにつきましては、後に投稿する設定集の中で説明出来れば良いなと考えたりします・・・。

少々力オスな内容になってしましましたが、さよならさんの幸福を願つて今回の作品を作りました。

薄幸“元”地味幽靈少女に幸あれです。

その13～休日は樂しく週1Jつもつよひ（前書き）

修学旅行前の休日、ネギ君が木乃香ちゃんヒートートをして、
裏側では、刹那ちゃんがスニーキングをしていました。
そして、それに付き合わされる光太郎君・・・。

それとは別の場所で買い物を楽しんでいる
祭ちゃん＆やよいちゃんの2人組・・・。

今回は、そんなお話です。

その13～休日は楽しく週1こまじゅう

正午 原宿 ショッピング街

「ふふふ・・・ネギ君〜？」 木乃香

「や、止めてください木乃香さんっ。僕、こんな服着れませんっ！」 ネギ

ネギ君は木乃香ちゃんと一緒に楽しい一時（？）を過ごしている頃

視点：八城光太郎

何故だらつ・・・。何故・・・。どうなったのだろうか？（汗）

「ひえんはい、ひいほへふははい。ふおうふあはをひいうひはつへ
ひはいはふ」

（訳：先輩、急いでください。お嬢様を見失つてしまします）

何故俺は、原宿まで来て桜咲と一緒にスニーキングをやつてこるのは

か？

今日は休日だから、久しぶりにまつたりと過ごすと想つていたのに・。

（時をさかのぼる事数時間前）

朝 麻帆良学園都市 郊外 錢湯 “漢の背中” 玄関

早朝から始めた修練を終えて、近所の錢湯で汗を流した後。コーヒー牛乳片手に店を出でみると・・・。

サイドポニーにスペツツ装備の制服姿、大きな刀剣袋を背負つた小柄な

少女・桜咲刹那さくしわせつなが、何やら怪しい動きをしていた。

「お嬢様・・・こんなに朝早くから、ネギ先生と一緒に何処へ・・・？」

そう呟きながらネギ＆木乃香をこつそり尾行する少女剣士。端から見れば

シユール以外の何ものでもないその光景を見た俺が取つた行動は、
「・・・おい、桜咲。朝っぱらから何をしているんだ？」

「ひやつつーーせ、せせせせせ先輩つー？」

「ストップ。あんまり騒ぐな、一人に気づかれるぞ」

背後から肩胛骨はんかくの辺りを突きながら話しかける事だった。

以上のような事があり、現在に至るわけであるが・・・。

「ひえんはい、ひいほへふははい。ふおうふあはをひいうひはつへ
ひはいはふ」

（訳：先輩、急いでください。お嬢様を見失つてしまします）

桜咲・・・。たい焼きを頬張りながら尾行するのはどうかと思ひついで?
まあ、可愛らしさから良いかな・・・? ん???

今のは微笑ましく感じたのであって、決して萌を感じたのでは無い
はず・・・。

俺は決して年下専門ではないし、ストライクゾーンも低めでは無い
んだ!!--

視点・祭ちゃん

今日は、さよちゃんと一緒に原宿まで買い物に来ています
一人で生活をするようになったから、色々と必要になるものが

「あの～。こんなにたくさん服を買つて買つて良かったんですか？」

「もちろんだよ～。わよけやんは可愛いから、お洒落にも気を使わないと

「そ、そのつ。結構お金もかかったのでは・・・？」

「いいんだよ、ねりりんが復学祝いにって事でさめにお金を渡してくれたし

「ううう。私なんかのため・・・ありがとうござります～」（へ

「ほりつ。泣かないの～。良こ子良こ子～（なでなで

う～ん、ほんに可愛い娘なのに誰も気がついてあげられ無かつたなんて・・・。

よじつ～～わよけやんの為に私が出来る事を精一杯やつていべそ～

つ～～！

視点・相坂さよ

出会いでまだ数日しか経っていないのに、祭先生は私に色々な事をして

下さっています。温かい体が戻つて来ただけでも嬉しいのに、こんなにたくさんの服まで買って頂いて・・・。

嬉しさで胸がいっぱいになつて、涙が出てきました。(^▽^)。

「ほりつ。泣かないの〜。良い子良い子〜」（なでなで）

そう言つて私の頭をなでる先生の手は、とても柔らかくて、体が芯から温まるような優しさが伝わつて来ました・・・。

人の温もりを感じる事が再び出来るよつになれたこのご恩を、いつかきっと返させて下さい。私、頑張りますっ。¤(^_-^)¤

視点・八城光太郎

結局、桜咲に付き合つて一日中ネギ＆木乃香を尾行していたのだけれど、今回のデートイベントに関しては、原作とあまり変化は無かつたと思う。

（木乃香嬢がほくほく顔だつたのと、若干手荷物が原作より多めだつたのは、おそらくネギの女装グッズだつた・・・・南無阿弥陀仏。

ただ、木乃香嬢がネギに膝枕をした時は -

「ネギ先生、何でうらやましい・・・いや、私がお嬢様に膝枕を・・・」

と、頬を赤らめながら「ふつふつ」と言っていた。不覚にもその様子を見て桜咲を可愛いと思つてしまつた俺は、やはり（21）の氣があるのだろうか？

前世で生きた年数と会わせると、40を超えるのであまり否定できそうに無いのが恐ろしい・・・・。

「アスナさん、誕生日おめでとうございます」ネギ

ネギと木乃香嬢が明日菜に誕生日プレゼントを渡し、その他（チア3人+ショタコーン委員長と一緒に麻帆良へ帰つて行くのを見届けて、今日の原作イベントが全て終わつた事を実感する。

そろそろ自分達も帰るつと思い、桜咲に声をかけよつとしたところで -

「あれ～？光太郎君に刹那ちゃん、もしかしてデート？」

背後から刹那さんに声をかけられた。考え方をしていたからと言つ

て、

全く気づかなかつた事に不覚を感じながら振り返ると・・・

私服姿のほわほわ少女・祭ちゃん、実体のある地味幽霊(?)少女がそこにいた。・・・・あれ、足がある?何故に?

「一体どうしたの? そんな幽霊でも見た顔をして? 」

・・・いや、そもそも相坂さよは幽霊少女では無かつたのか?

おまけ

その頃クウネルさんは、

「ふふふ、ついに“もふもふランプ”のチケットを手に入れました。・。・。

「これで祭さんをデートに誘う事が出来ます。ふふふ。可愛い物好きな

彼女の事です、きっと喜んで下承してくれるでしょう」

祭ちゃんと遊びに行く計画を立てていました。

その13～休日は樂しく週1～週2（後書き）

幽靈では無くなつたやよひやんと出合つた光太郎君。原作とは違つた流れに、惑う彼を待つてゐるのは、やはり面倒事なのでしょうか・・・?

その14～修学旅行前夜 ちょっとした一人の会話です（前書き）

更新が遅くなつて申し訳ありません。前回からの続きで、今回の内容は光太郎君と刹那ちゃんのやりとりです。

京都編の前にどうしても書いておきたかったので、投稿した次第です。

30000PV、5000ユーチューバークを突破しました。

この小説を口頃読んで下さる皆様に感謝して、これからも頑張って続けていきます。m(—_—)m

その14～修学旅行前夜 ちょっとした一人の会話です

夜 麻帆良学園都市 学園都市へと続く道

夜の学園都市、学生寮へと続く道を歩く一つの影があります。
我らが剣客純情少女・刹那ちゃんと、この物語の男主人公・光太郎
君です。

視点・桜咲刹那

あの後、私と八城先輩は何故か祭先生の自宅に招かれ、夕飯をご馳
走に
なりました。多少、私達も夕飯作りの手伝いをしましたが、先生・
・
料理が出来たんですね・・以外です。

「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 祭ちゃん

某カンフーアクション映画の日本版主題歌を歌いながら、餃子、炒
飯、
玉子スープと次々に料理を仕上げて行く姿を見て、普段の暇さえあ
れば
“ 昼寝 ” 、 “ 食事 ” もしくは “ ネコとの戯れ ” を行つて いる先生との
ギャップを感じました。

後、餃子の餡を皮に包むのを一番上手に行つて いたのが八城先輩だ

つたので、

思わず信じられない物を見るような眼で見てしました。その際に、

「・・・俺はこう見えても結構器用な所もあるんだぞ。決して古菲みたいに

格闘バカでは無いんだからな？」

少し拗ねた顔をしている先輩の様子が年相応に見えて思わず微笑んでしまいました。

普段一緒に仕事をしている時等は眉間にしわを寄せて任務をこなしている事が多いため、こういった表情を見る事が出来たのは幸いかもしませんね・・・。

さて、明日からは修学旅行です。荷物の準備を終えたら早く眠る事にしましょう。

木乃香お嬢様の平和は私が守つて見せます。ネギ先生だけでは不安ですからね。

視点：八城光太郎

何故か祭先生の自宅に招かれた俺と桜咲は、夕飯をご馳走になつたのであった。

俺達も多少手伝いはしたのだけれど、先生・・・料理できたのか・・・
以外だな。

「 ～ ～ ～ ～ ～ ～ 祭ちゃん

何処かで聴いた来た事のある歌を口ずさみながら、次々と料理を完成させていく。

うん、フリルのついたエプロン姿が実に愛らしい・・・いや、実に手際が良い。

普段は、“もふもふ”と何かを食べているか、“ふによん”と昼寝をしている
かのどちらかしか見かける事が無い為、激しいギャップを感じてしまつた。

後、餃子の餡を皮に包んでいると、桜咲が信じられない物を見る
うな眼で

此方を見ていた。その反応が少しだけ心外に感じたので、

「・・・俺はこう見えても結構器用な所もあるんだぞ。決して古菲
みたいに

格闘バカでは無いんだからな？」

と言つたら、しばらくの間きょとんとしていたが、すぐに“くすり
”と微笑んだ。

整つた顔立ちの美少女が、普段見せる事の無い笑顔を見せた・・・だ
と!?

うむ、実に良い笑顔だ。思わずどきりとしてしまつた程の良い笑顔
だつた。

明日からの修学旅行、恐らく色々なハプニングが起こり大変だとは思つが、

彼女も原作メインキャラの一人、無事に帰つて来られるはずだ・・・。

とは言え、不安に思つてしまつのはそれだけ、今自分の隣を歩いている少女の事が気になつてゐるからなのだろうか・・・。これはやはり、恋心なのか？

「人が歩く事しばし、女子学生寮が見えてきました。ビーチやハーバーで別れるようです。

「あ～。その、何だ・・・。明日からの修学旅行、無理をし過ぎるなよ～。多少は良い」として

頬をかき、そつぽを向きながらそんな台詞を言つた光太郎君を見て・

「（くすり）はい。ですが、京都では何があるか分かりませんから・・・。多少の無理はさせて頂きますよ？」

刹那ちゃんは、微笑みながりやつ言葉を返します。

「（む、やはり可愛いな）・・・。そうだな。まあ、無事に帰つて来いよ～。」

そう言つて、片手を挙げながら男子寮へと歩いていく光太郎君。暗がりではつきり

見えませんが、彼の顔は紅く染まつていたようです。以外と・・・
純情ですね？

「ええ、それでは失礼します。先輩、お疲れさまでした」

「ああ・・・桜咲もお疲れさん」

光太郎君が後を振り返ることなく男子寮へ向かつて行くのを見届けて、刹那ちゃん
も女子寮の中へと入つて行きました。

その14～修学旅行前夜 ちょっとした一人の会話です（後書き）

次回から、京都編に突入です。

祭ちゃんの活躍に期待しましょう。

きっと、シリアスな要素は少ないですが・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1209k/>

マイペースな祭ちゃん

2010年10月9日07時55分発行